

## 平成28年度 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 都立あきる野学園 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 事務局長、副校長1名 主幹(教務主任兼務)1名 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長3名、経営企画室長、主幹(教務主任兼務)、肢体不自由部門学部主幹2名、知的障害部門各学部主幹3名、生活指導主幹1名、学部主任1名、地域支援主任1名、進路指導部主任1名、 計15名
- (4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)  
学識経験者(放送大学教授)、PTA会長、医療機関職員(療育支援センター部長)、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣幼稚園長、サービス提供事業所代表、生活支援機関障害者雇用企業担当者(横河電機)、あきる野市福祉部障がい者支援課長
- 計11名

## 2 平成28年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
- 第1回 平成28年5月27日(金) 内部委員14名、協議委員7名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員長の選出  
授業見学、昨年度の学校運営連絡協議会から学校の現状と課題、施設開放、公開講座等  
学校経営計画、意見交換
- 第2回 平成28年9月28日(水) 内部委員10名、協議委員8名  
授業見学  
研究活動、プロジェクトチーム報告  
協議委員から活動に対する質問や意見と今後に向けて協議
- 第3回 平成28年2月20日(月) 内部委員13名、協議委員8名  
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議  
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
- 第1回 平成28年5月27日(金) 内部委員6名、評価委員4名  
今年度学校評価の基本方針の確認  
今年度の学校評価の実施に向けた検討
- 第2回 平成28年9月28日(水) 内部委員6名、評価委員4名  
今年度の学校評価の観点の検討  
評価項目および評価方法の確認
- 第3回 平成28年12月 8日(木)  
アンケート集計結果の分析と次年度に向けた考察 内部委員6名 評価委員4名
- 第4回 平成29年2月20日(月) 内部委員6名、評価委員4名  
アンケート集計結果の分析と考察に対する学校側の今後の方向性や取組みのまとめ  
協議会に向けての報告準備

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
- ・10月 教職員評価・各学部評価、保護者評価、関連諸機関 配布
  - ・10月 保護者、教職員、関連諸機関評価、児童・生徒評価283名対象 199名回収
  - ・11月 上旬 評価結果の分析
  - ・11月 上旬 評価内容の検討 課題解決の方針検討
  - ・12月 上旬 児童・生徒聴き取り評価
  - ・12月 評価委員会による まとめ
  - ・1月～3月にかけて 課題解決の具体的検討
- (3) 主な評価項目
- ①授業に関する評価
  - ②校内環境に関する評価
  - ③教職員に関する評価
  - ④地域支援に関する評価

#### (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

##### ＜保護者アンケートから＞ 1・2・3・4 段階

- ・提出率は、80, 6%で10%、上昇した。学部間の差も減じている。
- ・全体の評価は、「3, 6」で、昨年度と同様である。概ね良い評価であるが、微減している項目が多い。
- ・下降の程度は、「0, 1」の下降が、「4項目」「0, 2」の下降が1項目である。
- ・「連携」に関する項目が他の項目より評価が低い。（2段階の評価が、他と比較多い。）特に、教職員の情報共有と連携に「1段階」評価が多い。
- ・外部専門家活用では、活用の利点が保護者に十分伝わりきれていないと考えられる。
- ・人権及び体罰に関する評価は、「3, 8」「3, 7」の高評価だが、学部間の差が大きく、改善が求められる。また、自由記述には課題なることが残されている
- ・「授業・専門性」に関する評価は、微減している。自由意見にも専門性を評価する意見も多くみられるが、具体的な課題も提案されている。
- ・各項目とも具体的な改善要望が意見として出されている。

##### ＜教員アンケートから＞

- ・評価全体の平均は「3, 3」となっている。
- ・新しい取り組みについては。評価が低く出ている。取組途中であること、共通理解が不十分であることが要因と考えられる。
- ・授業ミーティングは、評価が微増している。活用している部署と活用して切れていない部署の差があることが、自由意見から読み取れる。
- ・ICT機器の活用は、他の項目より低い、昨年より微増している。活用の利点についての理解は進んでいる。
- ・保護者会への取り組みは「保護者会調整会議」を設定したことで、学校内での連携が意識されてきている。取組の意義と内容を更に共通理解する必要がある。
- ・人権に対する意識が高まっており、今後も維持することが求められる。
- ・併置校の取組が、「2, 7」と一番低い評価となっている。学校の特色でもある。併置校としての取組の内容や成果への理解が限られた教員のみになっていると考えられる。

##### ＜児童・生徒アンケート＞

- ・回収率は、79, 9%と10%上昇した。
- ・概ね良い評価結果となっている。
- ・どの学部も授業、行事とも概ね楽しく学習している。一部の教科に他の教科と比べ、「国語・数学」に関し、評価が低い。
- ・いじめや体罰等に関する記述はない。
- ・聞き取り調査を今後実施する。

##### ＜関係諸機関アンケート＞

- ・回収率は、58%。昨年度と同様。
- ・概ね良い評価結果となっている。
- ・「個別移行支援計画の活用」が、「2, 8」から「3, 3」と上昇している。様式を添付することも一因と考えられる。
- ・学校からの発信として「学校公開」「行事」「学校だより」の希望が多い。

#### (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・概ね良好な結果が出ている。今年度からの取組については、評価は他と比較して低い。
- ・自由意見には、多様な課題が提示されている。  
「早期な対応すべきもの」「中長期的な視野やもち改善をはかるもの」「重点的課題」等に分類するとともに、担当部署を明確にし、担当計画的に改善を図る必要がある。

##### 早期に対応を図るもの

- ・人権に配慮した対応
- ・いじめに関する対応

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

##### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・協議会から出された意見に対しすぐに対応できることについては、現場で改善されてきちんと対応され成果として現れた。
- ・授業ミーティングの時間確保などにより、授業改善や授業力向上に成果を上げることができた。次年度も継続・充実の方向で考えていくことが重要

##### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

### 課題

#### 学校としての一貫性の明確化（一貫性のある教育課程）

本校は、肢体不自由教育部門、知的障害教育部門の小学部・中学部・高等部の6学部からなる学校である。それぞれの専門性を活かし、指導を展開している。授業力などには一定の成果をあげ、高い評価を受けているが、部門間、学部間の連携では、教職員、保護者の両方から課題として挙がっている。（肢知併置校の特性、教員間の情報共有）

これは、教員・保護者とも小学部・中学部・高等部の一貫性への視点が希薄になってきているからだと考える。本校の12年間における教育課程を再度検討する中で、学校としての一貫性を明確することが求められる。これは、本校が取り組んできたキャリア教育の充実や肢知併置校としての特性を生かすことにもつながるものである。そして、教員が理解するとともに、保護者に周知する必要があると考える。今後、学習指導要領の改訂が実施される中で、この課題に取り組むことは重要である。

#### 継続課題① ICT機器の活用

ICT機器の指導の利点の理解はプロジェクトチームの取組等で進んできている。しかし、その活用方法については、まだ課題がある。環境整備も含め、継続して取り組む必要がある。

#### 継続課題② 保護者会の充実

今年度保護者会調整会議を設定したことで学部、進路部、支援部の連携が意識されるなどの成果があった。今後も保護者会を通じて、何を発信していくのか、内容の一貫性などをより精査し、教員間で共有することが求められる。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

上記の課題は、平成29年度において、特に重要な課題と考えられる。教育課程については、編成については多様な視点が考えられる。視点を明確にして、長期的な視野をもって、具体的な計画のもと、取り組むことが重要である。

しかし、上記の課題の他にも今年度取り組み、まだ途上であるものがある。継続課題については、平成29年度も担当を明確にし、継続的な取組が必要である。

この他にも、「専門性向上」「オリンピック・パラリンピック教育」等の取組は、終了するのではなく継続して取り組んでいく。

## 6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 11人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数：6人（3名は無回答）

2月の第3回学校運営連絡協議会の後に郵送によるアンケート回答：協議委員11名中8名が回答

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	2	2	0	0	0	3

## 7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 0人 企画調整会議 0回 0人

【成果】

## 8 その他

- ・学校の活動をしっかり見ていただく時間がとれず、言葉や文章表現でお伝えすることが多く協議委員の方々にしっかりと評価していただくにはもう少し工夫が必要である。授業参観の日程 内容等などをお知らせし、日頃から本校の教育活動を知っていただく機会を増やすように努める。